

ま え が き

ここに、2019年度における当研究所の活動実績をまとめた年報 52号を発刊する運びとなりました。

2019年12月に中国湖北省武漢市の海鮮市場の集団発生により報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のため、残念ながら東京オリンピック・パラリンピックの開催は延期になり、私たちの日常生活も一変してしまいました。

1月10日に新種のコロナウイルス（SARS-CoV-2）の遺伝子配列が公開され、1月末には感染研からPCR検査に必要な陽性コントロール、プライマー、試薬が全国の地方衛生研究所に配布され、当研究所でも1月末にはSARS-CoV-2のPCR検査ができるようになりました。

クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の乗客の検疫により、2月5日にSARS-CoV-2陽性者が確認されました。そんな中、2月13日に群馬県衛生環境研究所設立70周年記念講演会・シンポジウムの開催が予定されていました。群馬県では、まだPCR陽性者がいなかったため、場合により中止も考慮しつつ、思い切って開催することにしました。

特別記念講演では、地方衛生研究所全国協議会の調会長に「令和時代における地方衛生研究所のあり方」についてご講演いただき、続いて「地域における健康危機管理を考える」と題してシンポジウムを開催しました。調会長の講演を受け、シンポジウムでは、2009年の新型インフルエンザ流行時の対応を振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症対応の課題について、県内の関係者との貴重な意見交換、情報共有の場となりました。

群馬県では3月7日に県内1例目のPCR陽性者が確認されました。4月になり、有料老人ホームでPCR陽性者68名というメガクラスターが発生し、当研究所では、検体採取計画、保健所支援等、県、保健所等と連携して対応しました。

当研究所では、ウイルス検査担当者を3名から6名（兼務を含む）に増やし、土日や連休中も担当者を決め、ローテーションを組んで対応しています。

新型コロナウイルス感染症の流行により、衛研の業務は大きく変わりました。この難局を乗り越えるには、県、中核市、保健所、衛研、医師会、医療機関等、関係者が一丸となって、危機に立ち向かう必要があります。

群馬県衛生環境研究所は、引き続き、関係機関と連携しながら、頼りにされる研究所を目指して職員一同努力して行きますので、皆様方のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

2020年11月

群馬県衛生環境研究所長 猿木信裕